

日本と世界の文化・情報

【1】日本語の文字／縦書きと横書き

- テキストの新聞のイラストを見ると、生徒は、文字が縦に書かれていることに気づきます。もし、新聞の実物があれば、いっしょにながめながら、日本語の文字の印象を話します（この段階では、英語で話してもかまいません。）テキストの学習と並行して、ひらがなの学習がはじまっている段階ですが、日本語には、ひらがな、かたかな、漢字、そしてローマ字という四種類の表記があること、その使い分けについてのアウトラインを紹介し、文字への関心を高めます。生徒が、英語その他のアルファベットを用いる言語圏か、それ以外の言語圏かによっても、日本の文字に対するイメージは違ってくるものです。まずは、異なる言語文化に触れるという気持ちで、生徒たちが、日本の文字の全体像になじむように、楽しく紹介します。
- 日本語は歴史的に、古くは中国から、新しくは欧米のさまざまな言語から、外来語を取り入れてきたことを知ります。
- 「ノート」のような外来語はかたかなで書きますが、元の言語から日本語の発音とリズムに変えられていることを、発音練習を兼ねて、実感させます。



【2】友達同士の話し方

- L2のSHORT DIALOGUESでは、はじめて、普通体を紹介しています。すでに、Useful Expressionsで紹介した、目上や年上の人に話す場合のフォーマルな言い方と、同年代、年下に話す場合のカジュアルな言い方の二通りの延長線上の学習です。
- 特に海外で、二通りの使い分けを身のまわりから聞く機会もなく、ニーズが少ない所では、日本語にはそのような体系がある、ということ、を、まず、文化として知ることにおきます。

【3】そろばん

- 日本では小学校の算数の授業で、そろばんの使い方を学びます。商店では、伝統的にそろばんを使って、金額を計算していました。
そろばんがあれば、実物を見せて、簡単な足し算、引き算のやり方を紹介してもよいでしょう。
「(数) たす (数) は (数) です。」 「(数) ひく (数) は (数) です。」 の言い方を教え、問題も答えもL. 2までに習った20までの数字におさまるようにすれば、数字を聞き取ったり、言ったりする練習も兼ねて楽しめます。